

水産からカーボンニュートラルの 未来を展望する

気候変動と水産業の関連分野においては、カーボンニュートラルに向けて水産業及び関連する研究分野の貢献はどうかについての議論が活発化している。大気中の二酸化炭素は海洋にも吸収され、海洋生物によって取り込まれた炭素はブルーカーボンと呼ばれる。一方で海洋生物は二酸化炭素を排出するため、正味吸収がどの程度あるのか実態を把握する研究が進んでいる。また微細藻類を活用したバイオ燃料生産についても高い関心を集め、多くの研究が進行している。さらに、世界各地で生産された食材が食卓に上るようになった結果、フードシステムからの温室効果ガス排出量も拡大している。水産物の中には二酸化炭素等の排出量が低いとされる種類もあり、この特性をどう活用するかも社会的な課題といえる。本公開シンポジウムは、これらに関する現状と課題の整理を行い、水産業や海洋生物を活用したカーボンニュートラルの未来を展望し、アカデミアにとどまらず広く社会の人々と問題意識の共有を目指すものである。

令和4年
11月25日(金)
13:00-17:15
オンライン開催
(Zoomウェビナー)
参加費無料

プログラム

- 13:00-13:10 開会挨拶と趣旨説明 古谷 研 (創価大学プランクトン工学研究所、日本学術会議連携会員)
- 第1セッション: 基調講演 座長: 大越和加 (東北大学大学院農学研究科、日本学術会議第二部会員)
- 13:10-13:50 基調講演1 「海の生態系とカーボンニュートラル」
堀 正和 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所)
- 13:50-14:30 基調講演2 「ブルーカーボン: その役割と貢献」
桑江朝比呂 (国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所、
ジャパブルーエコノミー技術研究組合(JBE))
- 第2セッション: 事例報告 座長: 笠井久会 (北海道大学大学院水産科学研究院、日本学術会議連携会員)
- 14:40-15:10 事例報告1 「微細藻類の活用とカーボンニュートラル」
岡田 茂 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
- 15:10-15:40 事例報告2 「北西太平洋地域行動計画におけるアマモ場ブルーカーボン推計の国際的取組み」
寺内元基 (公益財団法人 環日本海環境協力センター(NPEC))
- 15:40-16:10 事例報告3 「水産業におけるカーボンフットプリント: 銚子に水揚げされる国産のサバを事例として」
松岡良司 (松岡水産(株))
- 第3セッション: 総合討論 座長: 八木信行 (東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議連携会員)
- 16:10-17:10 パネリスト: 堀 正和、桑江朝比呂、飯田ひかり (飯田水産(株))、
中田 薫 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構、日本学術会議連携会員)
- 17:10-17:15 閉会の挨拶 佐藤秀一 (福井県立大学海洋生物資源学部、日本学術会議連携会員)

主催: 日本学術会議食料科学委員会水産学分科会
共催: 水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会
後援: 大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、
日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、
日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会

Zoom ウェビナーによるオンライン開催 参加申込方法 (定員 1,000名)

参加をご希望の方は、11月19日(土)までに、下記URLまたは右にあるQRコードで参加申し込みサイトにアクセスして必要事項を入力の上、申し込みください。

<https://forms.gle/NKJ4JUWp8eQQJNHD7>

お申し込みいただいた方には、開催日までに、視聴用URLをメールにてご連絡いたします。

お問い合わせ先

高橋 一生 (水産・海洋科学研究連絡協議会幹事)

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科

TEL: 03-5841-5290 FAX: 03-5841-5308 E-mail: kazutakahashi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

